

第11回ごみ処理恵庭モデル検討会振り返り

資料1

日時→令和4年12月22日(木)16:00~18:00

場所→恵庭市民会館2階 視聴覚室

出席5名 欠席5名

1. リサイクルパーク設置協議会報告書について

恵庭リサイクルパーク設置協議会で協議された事項と結論について、資料2【リサイクルパーク設置協議会報告書】を基に説明を行った。

議論まとめ

▶障がい者の方々へ配慮した適切な計画である。現場の作業状況(資源物の仕分け・不適物の除去など大きな負荷が掛かっている)を見てもらう意義が大きいため、広く市民に公開される施設になることを前提とした施設運営が必要。現在の施設は老朽化が進み、構造的にも見学に向いていないように感じる。リサイクルパークではそういったことも意識した施設づくりを。

▶現場の作業状況が広く公開されることは良いと思う一方で、「見られることが苦手な作業員への配慮」の必要性も感じる。福祉作業所という側面からも「公開される」と「外からは見えないところ」をうまく両立した施設になるといいのでは。

▶リサイクルセンターの見学や廃棄物処理関係の情報交換会を通して、ごみを捨てる決まりや制限について、初めて知ることが多かった。まず自分たちが知ることが非常に大切だと感じた。

2. 令和7年度からのごみ処理手数料(案)について

資料3-1【処理手数料(処理原価と手数料負担割合)】について、消化ガス売却収入の配分を前回から調整し、改めて事務局から説明を行った。また、事業系一般廃棄物・産業廃棄物に係る契約書や締結の際に配布している資料3-3【事業系廃棄物の適正処理と減量・リサイクルの手引き】について事務局から説明を行い、資料3-2【ごみ処理手数料(案)】を用いてごみ処理手数料の変遷、焼却施設稼働時に改定したごみ処理手数料の検証、令和7年度からのごみ処理手数料(案)について説明を行った。

議論まとめ①

▶コスト全体を通してみると、「収集運搬費の増加」「ごみ焼却施設管理運営事業費の増加」「年間予算額の増加(R4 15.7億→R7 18.3億→R11 20億)」となっており、税金による負担のみでは、財政上、ごみ処理以外への負荷が大きくなるため、**手数料負担割合の見直しが重要**である。

▶事業系廃棄物の手引きについて、**概要版があるとより良い**のでは。ボリュームがあるので、わかりやすく適切な手続きをしてもらう工夫が必要。また、**手引きをより多くの事業者へ配布・周知**していくことも必要では。

▶事業者の契約書締結については、個人店や中小企業などの締結が不十分であるケースが多く、**未契約事業者へのアプローチ**についてしっかりと整理する必要がある。

▶家庭系ごみについて、「他市との均衡」「ごみ種別の料金格差によるインセンティブ」「ITの活用」など原案での提言に賛成。「単独自治体でのごみ処理による市民の利便性とコスト高はトレードオフの関係にある」ことを市民に伝えていく必要がある。

議論まとめ②

▶提言書への盛り込み案については他の部分と合わせ、より平易な表現に。

▶手数料の変更などは市民が納得できるよう「なぜ変わるのか」をわかりやすく伝えてほしい。「知りたい」という人に対して情報を提供できるような場(市民向け勉強会の開催等)を設けることも大切。併せて、教育の場でも使ってもらえるような資料づくりも重要だと感じた。

▶教育行政、福祉行政とも密に連携を図って取り組んでほしい。

▶ごみ処理手数料(案)について、合わせ産廃に係る手数料や処理費用が課題であることはわかるが、市民目線でのごみ処理手数料の負担増についても上がることに理解を求めただけでなく、今後の将来動向や、手数料を下げることは難しくても現状維持で済むように市民と行政で取り組むことを啓発するような内容について触れていく方がいいのでは。

▶事業系一般廃棄物・産業廃棄物について、全道的にみて非常に高い手数料設定である。事業者の現行手数料への受容度は高いものの、今後のコスト増によっては値上げもやむを得ないが、事業者での減量・リサイクルの推進によるコスト負担の低減を促進することで均衡を図る事が望ましい。

▶R2年度手数料改定時と実態は大きく乖離している。負担割合の考え方を踏襲して家庭ごみ処理手数料を単純試算すると生ごみが20円/ℓという単価になり、これまで市民が培ってきた土台がなくなってしまう。負担割合の考え方を改め、近隣市の状況や経済動向に配慮した料金設定が必要である。近年は状況の変化が大きいので、事業系廃棄物は料金変更の期間も含めて弾力的かつ柔軟に対応いただきたい。

▶市民のごみ処理場への直接搬入を減らすためには直接搬入料金の値上げが有効(現金精算時の負担軽減を図るため10円単位での設定も検討)ではないかを感じる。あわせて粗大ごみで出す際の市民が感じる煩わしさに対して、どのように配慮していくかも考えていく必要がある。

▶市民の直接搬入件数が減れば、事業者にとって待ち時間が減り時間効率化に繋がる。粗大ごみ受付をスマホで24時間いつでも予約ができるようにする仕組みづくりは急務。あわせて手数料支払方法のDX(キャッシュレス)化も今後要検討。

▶事業系ペットボトル・びんの受入再開は望ましいが、資源物回収の品質を担保・向上する施策(施設での受入拒否レベルを設定等)は必要であると思われる。

3. ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言書(案)について

ごみ処理恵庭モデル確立に向けた提言書(案)の前回議論に基づいた修正内容について、事務局から説明を行った。

議論まとめ

▶前回の検討課題や議論が十分に反映された提言書となっている。

▶P5(6)リサイクル率の推移のグラフとコメントの数字の整合性が分かりづらいので、「はじめに」で記載されている「高いリサイクル率」という表現を「道内市で2位のリサイクル率」という表現に置き換え、P5のコメントについては内容を変えるか削除してもよいのでは。

▶今回の議論を踏まえ、事務局で更に修正し次回検討会で最終案として提示する。